

徳之島松原方言のアクセント調査報告：用言の部(基本形)

上野, 善道

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

22

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

28

(発行年 / Year)

1998-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012577>

徳之島松原方言のアクセント調査報告

— 用言の部(基本形) —

上野善道

【要旨】松原方言の用言(動詞・形容詞)の基本形(終止形)について、アクセント資料を提示し、そのアクセント体系を考える。この方言の動詞と形容詞は、互いに異なる偏った分布を示す。すなわち、動詞は、a類とc類が中心で、b類は限られた構造の2音節語までにしか現われない。一方、形容詞は、b類が大半を占め、一定の音韻条件の下にa類が少数あるだけで、c類は該当語例がない。動詞のc類としたものは多様な音調型で出現するが、その間の違いは音節構造と語音構造との組み合わせによるもので、音韻的には同じ類に属すると解釈し、それに合わせて、体言におけるc類をめぐる拙案(1997b)を訂正する。しかしなお、動詞にも体言にも、a～c類の3型には納まらない型が1つずつ存在する。

【キーワード】松原方言、用言基本形、3型アクセント、音節構造、アクセント資料

1. はじめに

本稿に先立つ拙論(1997b)——以下、前稿——では、奄美德之島の松原方言について、その体言のアクセントを報告した。そこで示した解釈案は、崎村弘文氏のデータに基づく早田輝洋氏の解釈を、私自身の調査によって改訂したものである。その基本枠は(1)に示すような「3型アクセント」と見るが、複合語を中心にこれに納まらない型——「その他」としてまとめて掲げる——もあり、今後の課題であるとした。

(1) 4音節語までの体言の音調型一覧(前稿)

	a類： $\bar{\quad}$	b類： \diagup	c類： \diagdown	その他
1音節	「○=	「「○」	「○」	
2音節	「○○=	○「○=	○「○」	「「○」○[1]
	「○o=	○「o=	「○」o	
	o「○=	o「「○」	o「○」	
3音節	(「○○○=)	(○「○○=)	(○○「○」)	○「○」○[1]
	「○○o=	○「○o=	○「○」o	「○」o○[1]
	「○o○=	○「o○=	(○o「○」)	
	「○○o=	○「oo=	「○」oo	

	o「Oo=	oO「o=	(o「O」o)	
	(o「oO=)	oo「O=	oo「O」	
4 音節	(「OOoo=)	O「Ooo=	(O「O」oo)	
	(「OoOO=)	(O「oOO=)	(OoO「O」)	O「oO」O [1]
	(「OoOo=)	O「oOo=	(Oo「O」o)	「Oo」Oo [1]
	(「OooO=)	(O「ooo=)	(Ooo「O」)	O「oo」O [1]
	(o「OOO=)	oO「OO=	(oOO「O」)	
	o「OoO=	(oO「oO=)	(oOo「O」)	
	o「Ooo=	(oO「oo=)	(o「O」oo)	
	o「oOO=	(oo「OO=)	(ooO「O」)	
	(o「oOo=)	oo「Oo=	oo「O」o	
	(o「ooo=)	oo「oO=	(ooo「O」)	oo「o」O [2]

(1)において、記号はそれぞれ次のことを意味する。

○は**重音節**(CVV、CVN、CVQ)、oは**軽音節**(CV)で、各音節が「拍」をなす。

()付きの推定音調型は語例未発見、「その他」の[]は語例数(いずれも少数)。

「は拍間の上昇、「は拍内の上昇、」は拍間の下降、」は拍内の下降。

= は付属語(nu)がそのまま高く続く。どの類にも実例のない音節構造は省いた。

そして、a～cの各類につき、(2)のように特徴づけた(p.46)。原文の「長音節」、「短音節」を、それぞれ「重音節」、「軽音節」に統一して掲げる。

(2) 音調型派生規則(前稿)

a 類：第1音節が重音節の時はそこから上げよ。第1音節が軽音節の時は第2音節から上げよ。(パターンを図示するならば、 $\overline{\quad}$)

b 類：第1音節が重音節の時は第2音節から上げよ。第1音節が軽音節の時は第3音節から上げよ。ただし、低平調になる場合は、最終音節を上昇調にせよ。(∨)

c 類：最後の重音節で上げ、その音節の中で下げよ。(∨\)

以上が体言を扱った前稿の要点である。これに引き続いて、今度は用言のアクセントを取り上げる。その1回目として、動詞・形容詞の基本形を対象とする。用言基本形のアクセント資料を掲げ、そのアクセント体系を明らかにすることが本稿の目的である。活用形のアクセントは次稿に回す。

2. 話者

用言の話者は、次の2名である。福島氏が体言と共通の話者である。

(3) 話者情報

福島茂夫氏 1922(T11)年生 松原上区 77年体言、78年用言、95年補充、97年活用形
藤山ケイ子氏 1936(S11)年生 松原西区 96年活用形

用言の「基本形」は、事実上福島氏1人の資料であるが、藤山氏からも活用形調査の中でそこに出てくる基本形のアクセントを聞いているので、その資料も参照する。

2人の間には、分節音レベルで(4)のような違いが見られる。このうちの[su]は、前稿の話者、政(つかさ)憲良氏(西区出身)にも観察されている。地域差と世代差が絡んでいるものと思われる。活用形における差異は別稿とする。

(4) 分節音レベルの相違点

福島氏 [sju] ['wi:] [FE:]
藤山氏 [su] ['u:] [wE:]

3. 用言のアクセント資料について

考察のもとになる動詞・形容詞の基本形のデータを、別表として稿末に掲げる。

別表の形式は、

類、読み、通常表記、アクセント付き語形、その音節構造
の順である。

「類」は「金田一の類」で、用言の場合は「2a1」のように示した。これは「2拍1段動詞第1類」の意である。「a」は1段動詞、「b」は4段(5段)動詞を表わす。変格動詞は、適宜「c、d、e」などとした。(この「類」のa～eと、本稿で用いる名称のa～c類とは無関係である。)

語形の表記法は前稿と同じで、追加と変更をしたのは、

H -- 有声のh x -- NR

だけである。無声化の記録は簡略化して表記(。)を省略した箇所がある。

ここに言う「基本形」とは、文末に立つ言い切りの形で、いわゆる「終止形」であるが、福島氏の場合、-i(<ヲリ、アリのリ)に終わる形がもっとも出やすかったのでそれに統一して示した。他に、-N(<ム?)に終わる形も持ち、いくつかの動詞はその形(も)答えている。藤山氏からはこの-Nの形を記録している。周辺諸方言の例から判断しても、両氏とも、「ない」のような特殊なものを除けば、ほとんど全部の動詞・形容詞につき、-Nと-iの両

形を持ち、意味による使い分けをしているものと考えられる(拙論1997a参照)。

別表には示さないが、福島氏はさらに、本土方言の動詞連用形に対応すると思われる形(「巻く」で言えば ma^ʔki:)も答えている。形容詞にも、-hai/Nの他に、使用は稀ながらも、-kE:で終わる形がある。

なお、それぞれの項目に掲げた語形は、意味的にはほぼ相当するものであって、厳密に一致するとは限らない。特に形容詞においては意味のずれが大きく、用法の一部だけに合う形にすぎないものも含まれる。該当する単語が見つからないことも少なくない。

4. 動詞基本形のアクセント

4.1 音調型一覧

動詞の基本形のアクセントから先に見ていく。その音調型一覧を(5)に、そしてそれぞれの代表語例を1つずつ(6)に掲げる。

配列は音節構造別にし、できるだけ体言の(1)と同じ原則で並べてみた(この点ののちに検討を加える)。体言にある音調型で動詞基本形に出ないものは()に入れ、それ以外のところは空欄のままとした。ただし、用言の基本形の場合、語末はかならず -Vi/N に終わるので、最後は重音節(○)になり、軽音節(o)は現われない。軽音節に終わる体言の構造は表示そのものを省略した。以下の一覧表には、別表の語彙以外で得られている音調型も加えて示す。なお、(5)は音節単位で表記しているので、(6)の mju^ʔi、^ʔa^ʔji、ho:^ʔju^ʔji と、(5)の「^ʔ○、^ʔ○^ʔ」とは、それぞれ同じものであることに注意。

(5) 動詞基本形の音調型一覧

	a類: ー	b類: /	c類: / \	その他
1音節	「○[4]	「 ^ʔ ○[2]	「○ ^ʔ 」[1]	
2音節	「○○[20] o ^ʔ 「○[40]	○ ^ʔ ○[1] o ^ʔ 「 ^ʔ ○[44]	○ ^ʔ ○ ^ʔ 」[19] (o ^ʔ ○ ^ʔ 」)	「○ ^ʔ ○[10] 「○ ^ʔ 」○[1] (「 ^ʔ ○ ^ʔ ○)
3音節	「○○○[1] 「○o○[2] o ^ʔ 「○○[3] o ^ʔ o○[63]	(○ ^ʔ o○) (oo ^ʔ ○)	oo ^ʔ ○ ^ʔ 」[70]	(○ ^ʔ ○ ^ʔ ○) 「○o ^ʔ ○[1] ○ ^ʔ o ^ʔ ○[7]
4音節		(o○ ^ʔ ○○)		(○ ^ʔ o ^ʔ ○ ^ʔ ○) 「○○o ^ʔ ○[1] ○ ^ʔ oo ^ʔ ○[1] o ^ʔ 「○o○[1] (o ^ʔ o ^ʔ ○○)

o^oo○[10] (oo^oo○)oo^oo_o○[16]

(6) 動詞基本形の代表語形一覧

a 類: 一	b 類: /	c 類: / \	その他
1 「njui(煮る)	mju ^o i(見る)	「a ^o i(ある)	
2 「ko:ju ^o i(買う)	kus ^o sjui(殺す)	ho: ^o ju ^o i(這う)	「wl: ^o gju ^o i(泳ぐ) 「FE: ^o ju ^o i(入る)
	「i ^o kju ^o i(行く)	kakju ^o i(書く)	
3 「ha:ga:ju ^o i(光る)			
「Ma:riju ^o i(生れる)			「wl: ^o cji _o kju ^o i(追付く) wa: ^o ri _o ju ^o i(分れる)
sji ^o ku:ju ^o i(拗う)			
「a ^o roju ^o i(洗う)		「ukI ^o ju ^o i(受ける)	
4			「Kja:marasju ^o i(いじめる) CjiN ^o magI _o ju ^o i (ひん曲げる)
ha ^o ta:rakju ^o i(働く)			「uduN ^o ka _o sju ^o i(驚かす)
ha ^o zjimI _o ju ^o i(始める)			「acji ^o ma _o ju ^o i(集まる)

4.2 所属語彙

動詞の各型の所属語彙を**類別語彙**の観点から見ると、

第1類がa類、第2類がそれ以外

にはほぼ規則的に対応する(別表を参照)。特に、1音節語の○、2音節語のo○構造では対応関係が明瞭で、これらの**第2類**はb類に属する(「^o○、o^o○)。

しかし、2音節語でも○○構造はやや複雑で、b類は第1類の「殺す」に対応するであろう形しか得られていない。○○構造の第2類は、b類ではなく、c類(○^o○)」と「その他」(「_o○)とに属する(詳しくは次節参照)。

また、3音節語の第2類では、oo○構造はc類(oo^o○)」に、○o○構造は「その他」(○^oo_o)になる。4音節語の第2類でooo○構造の単語は、すべて「その他」のoo^oo_o型を取る。

すなわち、**第2類**は、○とo○では**b類**に、それ以外(○○と3音節以上)では**c類**と「その他」とに属していることになる。(この分布のあり方は、次節以降で問題とする。)

a類以外の孤例だけの型としては、1音節語のc類「○)」は「ある」しか見つかっていない(「ある」と並んで、ヨリが融合していないもう1つの単語「居る」はa類に納まる)。「その他」とした2音節語の「○)」も、3類語の「入る」1語だけである。

ちなみに、3音節語のa類「○○○)の語例は、第2類の「光る」に対応する形ではなく、「あかがる」に対応する形である。

4.3 問題点

(5)と(6)の配列から、次のような分布上の問題点が現われてくる。

a類の型がかなり良く揃っているのに対して、他は欠落が目立つ。**b類**は3音節以上になるとまったく現われなくなり、**c類**も4音節語には見つからない。その代わりに、a～c類に納まらない「その他」の音調型が多数出現する。それは、10例(「○」○)、7例(○「○」○)、16例(oo「○」○)など、体言の場合のような“少数の例外”とは言えない数である。そして、「その他」の型を具体的に見てみると、c類と同様に、その中に「下降」を含むものばかりである。

これらのことは、体言の考察においても問題になった「c類」の扱いを中心に、分類を再検討する必要があることを示している。

琉球方言の用言は、動詞はヲリ、形容詞はアリが融合した複合形に由来する。特に動詞は、複合動詞由来となるので、体言とは異質の体系をなす可能性もあらかじめ排除する訳には行かない。しかしながら、そのことが明らかにされるまでは、用言も体言も同じ体系に納まると想定して、両方を無理なく組み込める枠組みを考えるのが筋であろう。

4.4 新しい解釈

この問題の解決には、前稿の案を訂正し、

これまで「その他」としていた型のほとんどを「**c類**」と認めるべきというのが現在の私の解釈である。以下、その論拠を述べる。

まず、(5)のうち、「その他」と「c類」に分けて示した

「○」○型と○「○」型

は、(7)と(8)に見るように相補分布をなし、音韻的に同一扱いできる可能性が大きい。(7)の「○」○型は、第1音節が長母音を有する重音節で、かつその子音が喉頭音ないし喉頭化音(喉頭緊張化音)である。喉頭(化)音は、音声的に高いピッチを担いやすい性質をもつ。一方、(8)の○「○」型の第1音節は、長母音をもっている語頭子音は非喉頭(化)音であるか、長母音以外の重音節であるかである。

(7) 「○」○型の所属語彙

「o:jjui(合う)、 「wI:jjui(老いる)、 「wI:jjui(起きる)、 「KwE:jjui(肥える)、
「o:ggjui(扇ぐ)、 「wI:ggjui(泳ぐ)、 「u:jsjui(起こす) ;
「KwI:jjui(呉れる—これのみ第1類。cf.暮れる=「KwI:jjui)

(8) ○「○」型の所属語彙

no:ʔjuji(綯う)、 no:ʔjuji(縫う)、 ho:ʔjuji(這う)、 ju:ʔjuji(酔う) ;

kE:「ju_{ji} (掛ける)、 gwI:「ju_{ji} (吠える)、 mja:「ju_{ji} (見える)、 wE:「ju_{ji} (分ける) ;
 tu:「ju_{ji} (通る)、 no:「sju_{ji} (直す)、 no:「ju_{ji} (直る)、 ho:「kju_{ji} (掃く) ;
 je:「ju_{ji} (痩せる—対応語とすれば、これは第1類) ;
 taN「mju_{ji} (頼む)、 CjiN「mju_{ji} (包む) ; 'ak「Kju_{ji} (歩く)

また、次の(9)の同源の2つの語形——おそらく一方は共通語化した形——の存在も、
 「○」○型とc類(oo「○」型)との繋がりを示す。

(9) 起こす : 'u:「sjui 「○」○、 'uku「sjui oo「○」

2類語でoo○構造のものは、「起こす」に限らず、c類のoo「○」型になる。このoo「○」
 型と(8)の○「○」型とは、音節単位での表記こそ異なるものの、モーラ単位で見れば同じ音
 調実質である。違いは音節の切り方とその数だけである。

すなわち、2類語は、その音節・語音構造に応じて、

「○」○型、○「○」型、oo「○」型

の3種に分かれていることになるが、これら3つの型は、前2者が同じ音節構造で語頭子音
 に関して相補分布をなし、そして後2者は事実上同じ音調であることによって、結局1つに
 繋がるのである(1)。

さらに、(10)の各対の例も、「追い付く」と「ひん曲げる」は共時的にも複合動詞ではあ
 るが、(7)と(8)の關係に平行的であると捉えることができる。

(10) 'wI:cji「kjui (追い付く) 「○o」○ と wa:「ri「jui (分かれる) ○「o」○
 'Kja:maras「sjui (いじめる) 「○oo」○ と CjiN「magI「jui (ひん曲げる) ○「oo」○

そして、「分かれる」などと同じ2類語でも、語頭に長母音音節をもたないooo○構造の単
 語は、jabu「ri「jui (破れる)などのようにoo「o」○型となる。ここでも、

○「o」○型とoo「o」○型

とは、音節構造の違いだけで、モーラ単位で見れば同じ音調である。

また、「驚かす」'uduN「kas「juiの

o○「o」○型

も、「ひん曲げる」などの、一見異なる

○「oo」○型

と音韻的に同一の型に属することは、音節構造の違いから音声学的に説明できる。すなわち、
 o○「o」○型は重音節(第2音節)の中の弱い部分で上昇することを避けて、上昇を次の拍まで

遅らせた形である。

「〇〇」〇型と〇「〇」〇型は、音調実質においてかけ離れているように見えるが、その中間に〇「〇〇」〇型を置いてみれば、音声学的にきちんと繋がる。

以上の事実は、次の(11)が、拍数は違っても、いずれも同じ「c類」をなすことを意味している。そのどれになるかは、音節構造と語音構造(語頭子音)から自動的に決まる。

- (11) 「〇」〇型 と 〇「〇」型 と oo「〇」型
 「〇〇」〇型 と 〇「〇」〇型 と oo「〇」〇型
 「〇〇〇」〇型 と 〇「〇〇」〇型 と 〇〇「〇」〇型

ここまでの論の過程で問題になりうるのは、(11)の最初の例、すなわち(7)の音調型が「〇」〇型であって、他のパターンから予想されるような、〇「〇」型の第1音節を高くしただけの×「〇〇」型ではない点であるが、これは、

c類の動詞は最後の重音節の前で下降するのが原則

だからである。

新しく組み込んだc類の動詞全体を見てみると、最終重音節は低くなるのが原則で、〇「〇」型などのように、その中で下降調を取る方が例外であることが分かる。音節・語音構造に従って最終重音節で上昇する型の場合のみ、そのままでは原則を実現することができないため、やむをえずその最終重音節の中で下降しているのである。それに対して、喉頭(化)子音のために語頭から高く始まる型においては、語末までの距離に余裕ができるので、原則通りの姿を現わすものとする。これが「〇」〇型と〇「〇」型との関係である。

かくして、(5)は(12)のように改訂される。動詞に現われる型のみを示す。語例数も略す。c類の中で同一の音節構造が2つ並んでいる所は、いずれも、右側が語頭が「喉頭(化)音で始まる長母音」を有するもの、左側がそれ以外のもの、を示す。以下、喉頭(化)子音で始まる長母音音節を語頭にもつ音調型には、その前に#印を付けることにする(音楽記号のシャープからの連想である)。軽音節で始まる単語には#はありえない。

(12) 動詞基本形の音調型一覧(改訂版)

	a類： [—]	b類： [/]	c類： ^{/ \}	その他
1音節	「〇	「〇	「〇」	
2音節	「〇〇	〇「〇	〇「〇」	#「〇」〇 「〇」〇

	o「○	o「○○	
3 音節	「○○○		
	「○o○	○「o」○	#「○o」○
	o「○○		
	o「o○	oo「○」	
4 音節		○「oo」○	#「○oo」○
	o「○○○	o○「o」○	
	o「oo○	oo「o」○	

4.5 体言の解釈の再考

前稿の体言において行なった解釈、すなわち(1)の「その他」の扱いも、当然、動詞に合わせて修正が要求される。まず、動詞と同じ語末が重音節の体言(13)は、「その他」ではなく、正規の「c類」に組み込み、同じ構造でc類としていた語例ゼロの推定音調型は削除すべきである。

- (13) ○「○」○型 ma:「raN」seN(帆船の一種)
 ○「o○」○型 Fu:「cjimuc」cji:(よもぎ餅)
 ○「oo」○型 mIk「kuzji」ri:(目崩れ=盲)
 oo「o」○型 hana「sji」gui(話し声)、mIzji「ta」mai(水たまり)

そして、(14)の2つの型の関係も(7)と(8)の関係に等しいので、語末が軽音節の体言の
 #「○」○o型

もまたc類に入るものとする。

- (14) 「○」○o型 「Kwa:」'wI:bu(子指=小指)と ○「○」o型 na:「'wI:」bu(中指)

同様に、5音節語の例も含まれるが、

- (15) #「○o」○o型 「Cju:ma」Tu:mI(一まとめ)、
 #「○oo」○o型 「Cju:sasji」'wI:bu(人差し指)〈2〉

もc類となる。その結果、(1)の体言の「その他」に残る例外はただ1つ、(16)だけとなる。

- (16) 「「○」○型 ka「i」baN(お粥)

4.6 新しいc類の特徴づけ

個々の型の取り扱いにとどまらず、(2)の「最後の重音節で上げ、その中で下げる」という前稿のc類の特徴づけそのものも訂正しなければならない。

まず、一般のc類の「上昇」は、「最後の重音節」ではなく、「b類と同じ所」で起こる。すなわち、第1音節が重音節の時は第2音節で、第1音節が軽音節の時は第3音節で上がる。ただし、その上昇に該当する音節がない場合のみ、最終音節が上がる。言い換えれば、b類の拍内上昇(「 \uparrow ○、o \uparrow ○)に対して、c類は通常は拍間上昇(「○、o \uparrow ○)で実現する点だけが異なる。

この違いは、c類がそれ自身の中で必ず「下降」を伴うことと関係する。最終音節の中で下降(○ \downarrow)を実現させるためには、その音節の直前で上昇して-「○ \uparrow 」となるのがもっとも自然なあり方である。b類と同じ上昇では、最終1音節の中で上昇下降調-「○ \uparrow 」を実現しなければならず、音声的に苦しくなる。

その「下降」は、一義的にその位置を指定するにはデータがまだ不足しており、推測を含むことになるが、大筋では、

語末に可能な限り2モーラを残して生ずるのが原則

と考える。すなわち、語末の音節構造に応じて、(17)のようになる。ただし、ニ)の-o \downarrow ooは実例がない。また、-○ooについては判断を保留する。原則では-○ \downarrow ooが期待されるが、一方で、oに先立つ○は下降調(○ \downarrow o)をとるという傾向も別に観察されるからである(○に先立つ時は○ \downarrow ○で通常の下降)。

(17) 一般のc類の下降の位置

- イ) 語末が重音節でその直前に上昇がなければ、その重音節の直前(- \downarrow ○)
- ロ) 語末が重音節でその直前に上昇があれば、その重音節の中(-「○ \uparrow 」)
- ハ) 語末が「重音節+軽音節」であれば、その重音節の中(-○ \downarrow o)
- ニ) 語末が「軽音節+軽音節+軽音節」であれば、おそらく次末軽音節の直前(-o \downarrow oo)

上に「可能な限り」という条件を付けたのは、語末に2モーラ分の余裕がない場合には、(17)のロ)のように語末に1モーラを残して下降が生ずるからである。これを(18)として再掲する。(8)や(11)の○「○ \downarrow 」型はこれである。

(18) 語末重音節の直前で上昇がある時は、その重音節の中で下降が生ずる((-) \uparrow ○ \downarrow)

一方、「喉頭(化)子音+長母音」で始まるc類(#)の場合は、「上昇」は語頭部分で起こる。「下降」は、(19)の場合に一般のc類と違う所で起こる。(19)のロ)は、上昇の変更に伴い

(17)のロ)が(17)のイ)に含まれることで自ずと生ずるものである。(19)のハ)は語末2モーラの原則から逸脱している点で特異に見える。4音節語以上のデータが欠けているが、

c類(#)で軽音節に終わる場合は語末3モーラが低くなる

という原則があるのかもしれない(3)。

(19) c類(#)で、一般のc類と異なる下降の位置

cf.一般のc類

ロ)語末が重音節であれば、その重音節の直前(-「○」)

cf.(-「○」)

ハ)語末が「重音節+軽音節」であれば、その重音節の直前(-「○」o)

cf.(-「○」o)

この結果、一部に不定の部分を残すものの、(2)は(20)に訂正される。c類の修正に合わせて他も一部表現を変えた。c類以外、内容の変更はない。c類の細則は(17)~(19)に譲り、(20)では若干簡略化した。

(20) 音調型派生規則(改訂版)

a類：第1音節が重音節の時はそこから上げよ。第1音節が軽音節の時は第2音節から上げよ。(□)

b類：第1音節が重音節の時は第2音節から上げよ。第1音節が軽音節の時は第3音節から上げよ。該当する音節がない場合は、最終音節を上昇調にせよ。(∕)

c類：第1音節が重音節の時は第2音節から上げよ。第1音節が軽音節の時は第3音節から上げよ。該当する音節がない場合は、最終音節を上げよ。上げた後は、語末に可能な限り2モーラを残して下げよ。ただし、喉頭(化)子音で始まる長母音音節を語頭にもつ時は、語頭から上げ、特定の条件の場合に原則より1モーラ前で下げよ。(∕∖)

4.7 予想される可能な音調型一覧

今、(20)の線に沿って、品詞を問わずありうる音調型を予想してみると、(21)のようになる。c類(#)がありえないと考えられる箇所は空欄とした。改訂後にもなお残る「その他」は省略した(これは次節で取り上げる)。活用形は考慮に入れていない。品詞による差異も問題としない。

(21) 予想される可能な音調型

	a類：—	b類：∕	c類：∕∖
1音節	「○	「「○	「○」
2音節	「○○	○「○	○「○」 #「○」○

	「〇〇=	〇「〇=	??	&「〇」〇
	o「〇	o「〇	o「〇」	
3 音節	「〇〇〇	(〇「〇〇=)	〇「〇」〇	(#「〇〇」〇)
	「〇〇〇=	〇「〇〇=	〇「〇」〇	#「〇」〇〇
	「〇〇〇=	〇「〇〇=	(〇「〇」〇)??	&「〇」〇〇
	「〇〇〇	〇「〇〇=	〇「〇」〇	#「〇〇」〇
	o「〇〇	o〇「〇	(o〇「〇」)	
	o「〇〇=	o〇「〇=	??	
	o「〇〇	oo「〇=	oo「〇」	
4 音節	(「〇〇〇〇=)	(〇「〇〇〇=)	(〇「〇〇」〇)?	(#「〇〇〇」〇)?
	(「〇〇〇〇=)	(〇「〇〇〇=)	(〇「〇〇」〇)?	(#「〇〇」〇〇)?
	(「〇〇〇〇=)	〇「〇〇〇=	(〇「〇」〇〇)??	(#「〇〇」〇〇)??
	(「〇〇〇〇=)	〇「〇〇〇=	(〇「〇」〇〇)??	(#「〇〇」〇〇)??
	(「〇〇〇〇=)	(〇「〇〇〇=)	(〇「〇〇」〇)	(#「〇〇〇」〇)?
	(「〇〇〇〇=)	〇「〇〇〇	〇「〇〇」〇	(#「〇〇〇」〇)
	(「〇〇〇〇=)	〇「〇〇〇=	(〇「〇〇」〇)?	#「〇〇」〇〇
	(「〇〇〇〇=)	(〇「〇〇〇=)	〇「〇〇」〇	#「〇〇〇」〇
	(o「〇〇〇〇=)	o〇「〇〇	(o〇「〇」〇)?	
	o「〇〇〇	(o〇「〇〇=)	o〇「〇」〇	
	(o「〇〇〇)	(o〇「〇〇=)	(o〇「〇」〇)	
	o「〇〇〇=	(o〇「〇〇=)	(o〇「〇」〇)?	
	o「〇〇〇=	oo「〇〇	(oo「〇」〇)?	
	(o「〇〇〇=)	oo「〇〇=	oo「〇」〇	
	o「〇〇〇	oo「〇〇=	oo「〇」〇	

括弧に入れた語例未発見の箇所では、c 類の下降の位置が推定困難なところがあり、? を付した。もっと疑問のある箇所は ?? とした。音調型なしで ?? とある所は、語末の軽音節ではその内部で下降の生じようがなく、型自体が存在しない可能性がある。

#印の意味は前述の通りであるが、&印は、#とは条件が少し異なり、(22)のように、語頭が「喉頭(化)音で始まる重音節」であればよく、必ずしも長母音である必要はない。これは、語末が軽音節に終わる体言にしか見つかっていない。

(22) 「〇」〇型 PoNPu(ポンプ)、'uita(あなた方)

「〇」〇〇型 'uNbata(海端)〈4〉

なお、c類の「○」型は、動詞を見ると

「a_i」(ある)

で喉頭音で始まる重音節を思わせるが、体言では、

「wI_i」:(桶)、「kju_i」:(今日)、「na_i」:(中)、「bo_i」:(棒)、「mE_i」:(前)

など、非喉頭化音で始まる単語も多くあり、c類#とは認定されない。この「○」型は、語頭子音の如何を問わず高く始まる。

4.8 残る例外

動詞の考察の最後に、(5)の「その他」の中で唯一残っている「○」○型を取り上げる。この型は、語例がただ1つ、

(23) 「FE_i:ju_i」(入る)

があるのみで、「○」○型との対立の有無が問題になるが、この単語は、数回の調査にも動揺することは全くない。しかも、「入る」は語頭に喉頭(化)子音をもたない点でも(7)とは異なる。また、藤山氏も、

「WE_i:ju_N」

で、やはり「○」○である。したがって、

「○」○型と「○」○型は対立する

と見る。この区別は活用形においても保たれている〈5〉。

(23)の「○」○型と体言の(16)「○」○型は、それぞれ1例ずつであるとは言え、この方言の「拍」は「音節」であるとするだけで良いのか、という問題を提起することになる。これについては、c類の下降位置の指定に「モーラ」が必要であること、活用形には重音節を含まない単語が見つかることなども含めて、なお考えることにしたい。

5. 形容詞基本形のアクセント

5.1 音調型一覧

形容詞の音調型一覧を(24)に、その代表語例を(25)に示す。語例のないところは空欄のままとした。

(24) 形容詞基本形の音調型一覧

a類：—	b類：／	c類：／＼
1音節	「○」[1]	
2音節 「○○」[7]	○「○」[12]	

3 音節 「○○○[1]

o○「○[34]

4 音節 「○o○○[1]

○「o○○[1]

o○「○○[2]

oo「○○[8]

5 音節

○「oo○○[3]

oo「o○○[1]

(25) 形容詞基本形の代表語例一覧

a 類：—

b 類：／

c 類：／＼

1 音節

ne「N(ない)

2 音節 「ha:hai(赤い)

ta:「hai(高い)

3 音節 「ho:ra:hai(誇らしい=嬉しい)

'asa:「hai(浅い)

4 音節 「KwE:zjira:hai(おとなしい)

sjiN「mara:hai(怪しい)

tudIN「na:hai(徒然ない=寂しい)

mIzji「ra:hai(珍しい)

5 音節

mI:「sjigiro:hai(まぶしい)

'usji「gura:hai(薄暗い)

形容詞では、現在までのところ、a～c 類の3型に納まらない音調型は見つかっていない。「その他」がないだけでなく、**c 類も欠落**している。a 類も少なく、**b 類が圧倒的多数**を占めている点が形容詞の分布の特徴である。(24)は、c 類や「その他」の問題もなく、そのまま(21)の中に包括される。

音節構造では、語末が重音節であるだけでなく、次末音節もまた重音節をとる(-○○)点が動詞と異なる。a 類は語頭に長母音音節がくるものに限られる。しかし、その逆は成り立たず、語頭に長母音音節がきても b 類もありうる。語頭に軽音節がくる単語はすべて b 類のみである。

5.2 所属語彙

所属語彙の点では、**1 音節語**は「ない」のみである。その形も、ne「N(あるいはn「Nとも?)であり、もう1つの形 ne:「raN(b 類)と並んで、-i形を取らない点で特殊である。

2 音節語は○○の構造しかないが、その構造を取る**類別語彙**の分布は(26)のようになっている。

(26) ○○構造の所属語彙

「○○(a類) : 「ha:hai(赤い)、 「tu:hai(遠い)——第1類 ;

「Ma:hai(旨い)、 「Cju:hai(強い)——第2類

○「○(b類) : Fu:「sai(多い)、 kwa:「hai(固い)、 ta:「hai(高い)、 FE:「sai(早い)、

Fu:「sai(欲しい)、 wa:「hai(若い)、 was「sai(悪い)——第2類

すなわち、(27)の分布をしている。形容詞の中で、類別が意味をもっているのはここだけである。

(27) ○○構造の所属語彙の分布

「○○(a類) : 第1類、および第2類のうちの喉頭(化)子音で始まる単語

○「○(b類) : 第2類のうちの、喉頭(化)子音以外で始まる単語

第2類は語頭子音によって2分され、その中では相補分布の関係にあるが(6)、しかしながら、a類とb類が音韻的に対立することは、

「ha:hai(赤い) 対 ta:「hai(高い)

などから明らかである。(27)の分岐条件は、動詞における(7)と(8)の別に似るが、a類とb類だけでc類は現われないことと、a類とb類とが対立をなすことが違う。

3音節語以上の類別語彙では、a類が1例ずつある以外は、語類の別を問わずに○○○の構造をもち、b類の○「○型で現われる。1類語でも、'asa:「hai(浅い)のようにb類で出る。

このように、形容詞はb類が中心である。それに対して、動詞はa類とc類が中心であった。この差が、それぞれの基本形の成立事情、すなわち「+ヲリ」であるか「+アリ」であるかの違いを反映している可能性も含め、通時的背景については今後の課題とする。

[注]

〈1〉(4.4節)ちなみに、通時的に見ると、2拍語動詞第2類語のうち、語頭に長母音音節を生じさせさなかったものがb類を形成している。4段動詞が○「○型(書く)、非4段動詞が「○型(見る)である。同じく2拍動詞でも、語頭に長母音音節をもつようになったものは、3拍語動詞と同じくc類の○「○」型(這う)か「その他」の「○」○型(合う)に属する。b類になるかc類になるかは、語形の長さが関与している。すなわち、語形の長さが通時的アクセント変化の分岐条件となっている例である。

もとよりこれは通時論の話で、共時的には、○「○」(這う)と「○」○(合う)は音韻的に同じ型(c類)と認められるが、それとb類の○「○(書く)を同一扱いはできない。

〈2〉(4.5節)「Cju:sasji'wI:bu(人差し指)は、前稿では「Cju:sasji'wI:buとしていたが、本稿

のように訂正する。もっとも、前稿の形もないとは言い切れないようである。逆に、「Kwa:」'wI:bu(小指)の方も、「Kwa:'wI:」:buとも言うかもしれないという。「指」の単独形が「'wI:」:buであることも関係があって、複合語内部の結合がゆるくなった場合にその形が顔を出すのかもしれない。

〈3〉(4.6節)それとも、軽音節に終わる場合は重音節内の下降をできるだけ避けるためであろうか。いずれにせよ、上記の注〈2〉で述べたような若干の揺れは、複合語内部の結合度の他に、(19)のハ)がやや異質なことも関係があるかもしれない。

〈4〉(4.7節)この「○」ooの下降調についても、4.6節で述べたように、軽音節の直前の重音節ゆえとする見方と、c類#に準じて、軽音節に終わるので語末3モーラが低くなっているとする見方とがありうる。

〈5〉(4.8節)ただし、活用形のごく一部に、両型の間で動揺が見られた項目はある。

〈6〉(5.2節)2類語という保証はないが、次の例もその1つである。

'o:sai(危ない)と'o:'sai(おかしい)

[引用文献]

上野善道(1997a)「奄美大島佐仁方言のアクセント調査報告——用言の部——」『琉球の方言』21、1-42
上野善道(1997b)「徳之島松原方言のアクセント調査報告——体言の部——」言語人文学会『言語と人間』創刊号、37-62

[付記] 話者の福島茂夫、藤山ケイ子両氏のご協力に御礼を申し上げます。両氏の紹介をはじめ、調査全般をお世話下さった岡村隆博氏御一家にも感謝したい。この調査は、文部省科学研究費の奨励研究(1977、78)と一般研究(95)・基盤研究(96、97)によって行なわれた。データの整理に際し、福井玲氏、田野村忠温氏がそれぞれ作成したソフトを利用した。また、東京大学言語学研究室の石山伸朗氏の協力も得た。

(うわの ぜんどう・東京大学教授)

松原方言の用言基本形のアクセント資料

◎ 動詞

類	読み	表記	語形	音節構造
2a1	キル	着る	Ki [↑] jui	o [↑] ○
2a1	ニル	煮る	[↑] njui	[↑] ○
2a2	ミル	見る	mju [↑] i	[↑] ○
2b1	アク	開く [明]	'a [↑] kjui	o [↑] ○
2b1	イウ	言う	[↑] 'jui	[↑] ○
2b1	イク	行く	'i [↑] kjui	o [↑] ○
2b1	イル	入る	'i [↑] jui	o [↑] ○
2b1	ウル	売る	'u [↑] jui	o [↑] ○
2b1	オウ	追う	[↑] 'u:jui [sic.]	[↑] ○○
2b1	オク	置く	'u [↑] kjui	o [↑] ○
2b1	オス	押す	'u [↑] sjui	o [↑] ○
2b1	オル	織る	wu [↑] jui	o [↑] ○
2b1	カウ	買う	[↑] ko:jui	[↑] ○○
2b1	カス	貸す	ka [↑] rasjui [sic.]	o [↑] o○
2b1	カル	刈る	ka [↑] jui	o [↑] ○
2b1	キク	聞く	ki [↑] kjui	o [↑] ○
2b1	クム	汲む	Ku [↑] mjui	o [↑] ○
2b1	ケス	消す	[↑] Kja:sjui [sic.]	[↑] ○○
2b1	コス	越す	ku ^o [↑] sjui	o [↑] ○
2b1	サク	咲く	sakju [↑] i [sic.]	o [↑] [↑] ○
2b1	シク	敷く	sji ^o [↑] kjui	o [↑] ○
2b1	シヌ	死ぬ	sji [↑] njui	o [↑] ○
2b1	シル	知る	x (cf. sjic [↑] Cji (知った), sjic [↑] Cju [↑] i (知っている)) -	
2b1	スウ	吸う	<m>sj [↑] buju	o [↑] o○
2b1	タス	足す	ta [↑] sjui	o [↑] ○
2b1	ツク	突く	cji ^o [↑] kjui	o [↑] ○
2b1	ツグ	継ぐ	Cji [↑] gjui	o [↑] ○
2b1	ツム	積む	Cji [↑] mjui	o [↑] ○
2b1	ツル	釣る	Cji [↑] jui	o [↑] ○
2b1	トブ	飛ぶ	tu [↑] bjui	o [↑] ○

2b1	ナク	泣く	na ^ɸ kju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	ナク	鳴く	na ^ɸ kju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	ナル	鳴る	na ^ɸ ju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	ヌク	抜く	nugju ^ɸ i, nu ^ɸ kju <i>i</i>	o ^ɸ ɸ○, o ^ɸ ○
2b1	ヌル	塗る	nu ^ɸ ju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	ノル	乗る	nu ^ɸ ju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	ハル	張る	ha ^ɸ ju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	ヒク	引く	hji.o ^ɸ kju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	フク	拭く	Fukju ^ɸ i [sic.]	o ^ɸ ɸ○
2b1	フル	振る	Fu ^ɸ ju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	マク	巻く	ma ^ɸ kju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	ムク	向く	mu ^ɸ kju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	モム	揉む	mu ^ɸ mju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	モル	盛る	mu ^ɸ ju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	ヤク	焼く	ja ^ɸ kju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	ユウ	結う	ɸju:ju <i>i</i> (髪を)	ɸ○○
2b1	ヨブ	呼ぶ	ju ^ɸ bjui	o ^ɸ ○
2b1	ヨル	寄る	ju ^ɸ ju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	ワク	湧く	wa ^ɸ kju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b1	ワル	割る	wa ^ɸ ju <i>i</i>	o ^ɸ ○
2b2	アウ	合う [会]	ɸ'o:ju <i>i</i>	ɸ○, ○
2b2	アム	編む	'amju ^ɸ i	o ^ɸ ɸ○
2b2	ウツ	打つ	'uCju ^ɸ i	o ^ɸ ɸ○
2b2	ウム	膿む	'umju ^ɸ i	o ^ɸ ɸ○
2b2	オル	折る	wuju ^ɸ i	o ^ɸ ɸ○
2b2	カク	書く	kakju ^ɸ i	o ^ɸ ɸ○
2b2	カツ	勝つ	kaCju ^ɸ i	o ^ɸ ɸ○
2b2	キル	切る	Kiju ^ɸ i	o ^ɸ ɸ○
2b2	クウ	食う	kamju ^ɸ i (噛む)	o ^ɸ ɸ○
2b2	クム	組む	Kumju ^ɸ i	o ^ɸ ɸ○
2b2	コグ	漕ぐ	kugju ^ɸ i	o ^ɸ ɸ○
2b2	サク	裂く	sakju ^ɸ i	o ^ɸ ɸ○
2b2	サス	刺す	sasju ^ɸ i	o ^ɸ ɸ○
2b2	ソル	剃る	sjuju ^ɸ i	o ^ɸ ɸ○

2b2	タツ	立つ	taCju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	ツク	着く	cji ^o .kju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	ツク	付く	cji ^o .kju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	テル	照る	tiju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	トグ	研ぐ	tugju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	トル	取る	tuju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	ナウ	緬う	no: ^ɾ ju ^ɾ i	o ^ɾ o ^ɾ ɾ ^ɾ
2b2	ナル	生る	naju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	ヌウ	縫う	no: ^ɾ ju ^ɾ i[sic.]	o ^ɾ o ^ɾ ɾ ^ɾ
2b2	ヌグ	脱ぐ	nugju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	ネル	練る	nIju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	ノム	飲む	numju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	ハウ	這う	ho: ^ɾ ju ^ɾ i	o ^ɾ o ^ɾ ɾ ^ɾ
2b2	ハク	掃く	ho: ^ɾ kju ^ɾ i(はわく),hakju ^ɾ i	o ^ɾ o ^ɾ ɾ ^ɾ ,o ^ɾ ɾo
2b2	ハク	吐く	hakju ^ɾ i,'a ^ɾ glju ^ɾ i(あげる)	o ^ɾ ɾo,o ^ɾ o ^ɾ
2b2	ハグ	剥ぐ	hagju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	フク	吹く	Fukju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	フル	降る	Fuju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	ホス	干す	Fusju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	ホル	掘る	Fuju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	マク	蒔く	makju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	マツ	待つ	macju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	ムス	蒸す	mu ^ɾ sjui[sic.]	o ^ɾ o
2b2	モツ	持つ	muCju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	モル	漏る	muju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b2	ヨウ	酔う	ju: ^ɾ ju ^ɾ i	o ^ɾ o ^ɾ ɾ ^ɾ
2b2	ヨム	読む	jumju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2b3	オル	居る	^ɾ wui	^ɾ o
2bz	ケル	蹴る	kIju ^ɾ i	o ^ɾ ɾo
2c1	スル	為る	^ɾ sjui	^ɾ o
2d2	クル	来る	kju ^ɾ i	^ɾ ɾo
2e2	アル	有る	^ɾ 'a ^ɾ i	^ɾ o ^ɾ ɾ ^ɾ
3a1	アケル	開ける[明]	'a ^ɾ kIju ^ɾ i	o ^ɾ o ^ɾ o
3a1	アゲル	上げる	'a ^ɾ glju ^ɾ i	o ^ɾ o ^ɾ o

3a1	アテル	当てる	'a ^r tijui	o ^r o○
3a1	アレル	荒れる	'a ^r rijui	o ^r o○
3a1	イレル	入れる	'i:jujui [sic.]	「○○
3a1	ウエル	植える	'wI:jujui [sic.]	「○○
3a1	ウメル	埋める	'uNbjui [sic.]	「○○
3a1	カエル	替える	'kE:jujui [sic.]	「○○
3a1	カケル	欠ける	'kI:jujui	「○○
3a1	カ Ril	借りる	ka ^r jujui (借る)	o ^r ○
3a1	カレル	枯れる	ka ^r rijui	o ^r o○
3a1	キエル	消える	'Ki:jujui	「○○
3a1	キセル	着せる	ki ^o sjijui	o ^r o○
3a1	クレル	呉れる	'KwI:jujui [sic.]	「○」○
3a1	クレル	暮れる	'KwI:jujui [sic.]	「○○
3a1	コエル	越える	'kwI:jujui [sic.]	「○○
3a1	ソメル	染める	sju ^r mujui	o ^r o○
3a1	ツケル	漬ける	cI ^o kljujui	o ^r o○
3a1	ヌケル	抜ける	nugI ^r ju _{ji} [sic.]	oo ^r ○」
3a1	ヌレル	濡れる	nu ^r rijui	o ^r o○
3a1	ノセル	載せる	nu ^r sjijui	o ^r o○
3a1	ハレル	腫れる	ha ^r rijui	o ^r o○
3a1	ホレル	惚れる	Fu ^r rijui	o ^r o○
3a1	マケル	負ける	ma ^r kljujui	o ^r o○
3a1	マゲル	曲げる	ma ^r gIjujui	o ^r o○
3a1	ムセル	咽せる	<m>mu ^r sjijui	o ^r o○
3a1	モエル	燃える	'mE:jujui [sic.]	「○○
3a1	ヤセル	瘦せる	je: ^r ju _{ji} [sic.] , ja ^r sjijui	○ ^r ○」, o ^r o○
3a1	ヤメル	止める	ja ^r mIjujui	o ^r o○
3a1	ヨセル	寄せる	ju ^r sjijui	o ^r o○
3a2	イキル	生きる	'iki ^r ju _{ji}	oo ^r ○」
3a2	イデル	出る	'izji ^r ju _{ji}	oo ^r ○」
3a2	ウエル	飢える	kacji ^r ri _{jujui} (かつれる)	oo ^r o」○
3a2	ウケル	受ける	'ukI ^r ju _{ji}	oo ^r ○」
3a2	オイル	老いる	'wI:jujui [sic.]	「○」○
3a2	オキル	起きる	'wI:jujui	「○」○

3a2	オチル	落ちる	haN ^ɾ ti _ɾ jui [sic.]	○ ^ɾ o _ɾ ○
3a2	オリル	下りる	'uri ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	カケル	掛ける	kE: ^ɾ ju _ɾ i	○ ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	コエル	肥える	^ɾ KwE: _ɾ jui [sic.]	^ɾ ○ _ɾ ○
3a2	サゲル	下げる	sagI ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	サメル	覚める	samI ^ɾ ju _ɾ i, ^ɾ wI: _ɾ jui (起きる)	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ, ^ɾ ○ _ɾ ○
3a2	シメル	締める	sjimI ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	スギル	過ぎる	sjigi ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	セメル	攻める	sjimI ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	タテル	建てる	tatI ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	タレル	垂れる	taju ^ɾ i (垂る)	o ^ɾ ^ɾ ○
3a2	ツメル	詰める	CjimI ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	トケル	解ける	tu _o kI ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	ナゲル	投げる	nagi ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	ナデル	撫でる	nadi ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	ナメル	舐める	namI ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	ナレル	馴れる	nari ^ɾ ju _ɾ i, naro ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ, oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	ハネル	跳ねる	hanI ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	ハレル	晴れる	hari ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	ホエル	吠える	gwI: ^ɾ ju _ɾ i	○ ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	ホメル	誉める	FumI ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	ミエル	見える (船が〜)	mja: ^ɾ ju _ɾ i [sic.]	○ ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	ミセル	見せる	mjisji ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	ユデル	茹でる	judi ^ɾ ju _ɾ i	oo ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a2	ワケル	分ける	wE: ^ɾ ju _ɾ i	○ ^ɾ ○ _ɾ ɾ
3a3	ハイル	入る (這入)	^ɾ FE: _ɾ jui [sic.]	^ɾ ○ _ɾ ɾ○
3b1	アガル	上がる	'a ^ɾ gajui	o ^ɾ o _ɾ ○
3b1	アソブ	遊ぶ	'a ^ɾ sjibjui	o ^ɾ o _ɾ ○
3b1	アタル	当たる	'a ^ɾ tajui	o ^ɾ o _ɾ ○
3b1	アラウ	洗う	'a ^ɾ rojui	o ^ɾ o _ɾ ○
3b1	アラス	荒らす	'a ^ɾ rasjui	o ^ɾ o _ɾ ○
3b1	ウカブ	浮かぶ	'u ^ɾ kabjui	o ^ɾ o _ɾ ○
3b1	ウタウ	歌う	'u ^ɾ tojui	o ^ɾ o _ɾ ○
3b1	オクル	送る	'u ^ɾ Kujui	o ^ɾ o _ɾ ○

3b1	オドス	威す(わっと～)	'uduN ^Γ ka ^Γ sjui (驚かす)	o ^Γ o ^Γ o ^Γ
3b1	オドル	踊る	wu ^Γ dujui	o ^Γ o ^Γ
3b1	オワル	終る	'u ^Γ wajui	o ^Γ o ^Γ
3b1	カガム	屈む	'u ^Γ cjiNkjui	o ^Γ o ^Γ o ^Γ
3b1	カコム	囲む	#ka ^Γ komjui	o ^Γ o ^Γ
3b1	カザル	飾る	ka ^Γ zjajui [sic.]	o ^Γ o ^Γ
3b1	カヨウ	通う	ka ^Γ jojui	o ^Γ o ^Γ
3b1	カワル	代わる	ka ^Γ wajui	o ^Γ o ^Γ
3b1	クダス	下す	Ku ^Γ dasjui (腹を)	o ^Γ o ^Γ
3b1	クダル	下る	Ku ^Γ dajui	o ^Γ o ^Γ
3b1	クボム	窪む	Ku ^Γ bumjui	o ^Γ o ^Γ
3b1	クラス	暮らす	Ku ^Γ rasjui	o ^Γ o ^Γ
3b1	ケズル	削る	kIzjI ^Γ ju ^Γ i, ka: ^Γ zjI ^Γ jui	oo ^Γ o ^Γ o ^Γ , o ^Γ o ^Γ o ^Γ
3b1	コロス	殺す	kus ^Γ sjui [sic.]	o ^Γ o ^Γ
3b1	サガス	捜す	tomE ^Γ ju ^Γ i	oo ^Γ o ^Γ o ^Γ
3b1	サグル	探る	sa ^Γ wajui (触わる)	o ^Γ o ^Γ
3b1	サラス	晒す	sa ^Γ rasjui	o ^Γ o ^Γ
3b1	シズム	沈む	'sjiNkjui	o ^Γ o ^Γ
3b1	スクウ	掬う	sjj ^Γ ku ^Γ jui	o ^Γ o ^Γ o ^Γ
3b1	ススム	進む	'ak ^Γ Kju ^Γ i (歩く)	o ^Γ o ^Γ o ^Γ
3b1	チガウ	違う	cji ^Γ gojui	o ^Γ o ^Γ
3b1	チラス	散らす	cji ^Γ rasjui	o ^Γ o ^Γ
3b1	ツカウ	使う	cji ^Γ kojui	o ^Γ o ^Γ
3b1	ツズク	続く	Cji ^Γ zjikjui	o ^Γ o ^Γ
3b1	ツナグ	繋ぐ	Cji ^Γ nagjui	o ^Γ o ^Γ
3b1	ツモル	積もる	x (cf. Cji ^Γ mjuN (積む))	-
3b1	トバス	飛ばす	tu ^Γ basjui	o ^Γ o ^Γ
3b1	ナラス	鳴らす	na ^Γ rasjui	o ^Γ o ^Γ
3b1	ナラブ	並ぶ	na ^Γ rabjui	o ^Γ o ^Γ
3b1	ニギル	握る	'miN ^Γ gjui, nji ^Γ gijui	o ^Γ o ^Γ o ^Γ , o ^Γ o ^Γ o ^Γ
3b1	ネムル	眠る	'nINbjui	o ^Γ o ^Γ
3b1	ノゾム	望む	nu ^Γ zjumjui	o ^Γ o ^Γ
3b1	ノボル	昇る [登]	'nuNbjui, nu ^Γ bujui	o ^Γ o ^Γ o ^Γ , o ^Γ o ^Γ o ^Γ
3b1	ハコブ	運ぶ	'mucCji ^Γ kju ^Γ i (もってくる)	o ^Γ o ^Γ o ^Γ o ^Γ

3b1	ハズス	外す	ha ^ɾ zjisjui	o ^ɾ o○
3b1	ヒロウ	拾う	sji ^ɾ rojui [sic.]	o ^ɾ o○
3b1	フサグ	塞ぐ	^ɾ sa:gsjui [sic.]	^ɾ ○○
3b1	マガル	曲がる	ma ^ɾ gajui	o ^ɾ o○
3b1	マツル	祭る	ma ^ɾ cjijui	o ^ɾ o○
3b1	ミガク	磨く	tugju ^ɾ i (研ぐ. 普), mi ^ɾ gakjui	o ^ɾ ^ɾ ○, o ^ɾ o○
3b1	ムカウ	向かう	N ^ɾ kE:jui [sic.]	o ^ɾ ○○
3b1	モラウ	貰う	mu ^ɾ rojui [sic.]	o ^ɾ o○
3b1	ユズル	譲る	wE: ^ɾ ju _i (分ける)	○ ^ɾ ○ _i
3b1	ワカス	沸かす	wa ^ɾ kasjui (cf. ^ɾ wa:sjui=煮る)	o ^ɾ o○
3b1	ワタル	渡る	wa ^ɾ tajui	o ^ɾ o○
3b1	ワラウ	笑う	wa ^ɾ rojui	o ^ɾ o○
3b2	アオグ	扇ぐ	^ɾ o: _i gsjui [sic.]	^ɾ ○ _i ○
3b2	アマル	余る	'ama ^ɾ ju _i	oo ^ɾ ○ _i
3b2	イソグ	急ぐ	'isju ^ɾ ga _i jui (いそがる)	oo ^ɾ o _i ○
3b2	ウラム	恨む	'ura ^ɾ mju _i	oo ^ɾ ○ _i
3b2	エラブ	選ぶ	'ira ^ɾ bju _i	oo ^ɾ ○ _i
3b2	オガム	拝む	'uga ^ɾ mju _i [sic.]	oo ^ɾ ○ _i
3b2	オコス	起こす	^ɾ u: _i sjui [sic.], 'uku ^ɾ sju _i	^ɾ ○ _i ○, oo ^ɾ ○ _i
3b2	オモウ	思う	'umo ^ɾ ju _i , 'omo ^ɾ ju _i	oo ^ɾ ○ _i , oo ^ɾ ○ _i
3b2	オヨグ	泳ぐ	^ɾ wI: _i gsjui	^ɾ ○ _i ○
3b2	オロス	下ろす	'uru ^ɾ sju _i	oo ^ɾ ○ _i
3b2	カカル	懸かる	kaka ^ɾ ju _i	oo ^ɾ ○ _i
3b2	カナウ	叶う	kano ^ɾ ju _i	oo ^ɾ ○ _i
3b2	カブル	被る	kabu ^ɾ ju _i	oo ^ɾ ○ _i
3b2	カワク	乾く	^ɾ ko:rakjui (かわらく)	^ɾ ○o○
3b2	クズス	崩す	Kuzji ^ɾ ra _i sjui (崩らす)	oo ^ɾ o _i ○
3b2	クモル	曇る	Kumo ^ɾ ju _i	oo ^ɾ ○ _i
3b2	コラス	懲らす	^ɾ Kja:marasjui (いじめる意)	^ɾ ○○o○
3b2	サガル	下がる	saga ^ɾ ju _i	oo ^ɾ ○ _i
3b2	シボル	絞る	sjibu ^ɾ ju _i	oo ^ɾ ○ _i
3b2	スゴス	過ごす	sjigi ^ɾ ju _i [過ぎる_?]	oo ^ɾ ○ _i
3b2	スベル	滑る	nuzji ^ɾ ri _i jui, sube ^ɾ ju _i	oo ^ɾ o _i ○, oo ^ɾ ○ _i
3b2	ソダツ	育つ	sjuda ^ɾ cju _i , Fu ^ɾ dejui (人や木が太る)	oo ^ɾ ○ _i , o ^ɾ o○

3b2	タオス	倒す	KugE ^ら sjui	oo ^ら o ^ら ○
3b2	タノム	頼む	taN ^ら mju ^ら ji	○ ^ら ○ ^ら じ
3b2	ツカム	掴む	Cjika ^ら mju ^ら ji	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	ツクル	作る	Cjiku ^ら ju ^ら ji	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	ツツム	包む	CjiN ^ら mju ^ら ji	○ ^ら ○ ^ら じ
3b2	トール	通る	tu: ^ら ju ^ら ji	○ ^ら ○ ^ら じ
3b2	トガル	尖る	tuga ^ら ju ^ら ji	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	トドク	届く	tudu ^ら kju ^ら ji, cji ^ら o ^ら kju ^ら i (着く)	oo ^ら ○ ^ら じ, o ^ら ○ ^ら ○
3b2	ナオス	直す	no: ^ら sjui	○ ^ら ○ ^ら じ
3b2	ナオル	直る	no: ^ら ju ^ら ji	○ ^ら ○ ^ら じ
3b2	ナガス	流す	naga ^ら ra ^ら sjui (流らす), naga ^ら sjui	oo ^ら o ^ら ○, oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	ナラウ	習う	naro ^ら ju ^ら ji	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	ニゴル	濁る	nIgu ^ら ri ^ら ju ^ら i [sic.]	oo ^ら o ^ら ○
3b2	ヌグウ	拭う	nogo ^ら ju ^ら ji, Fukju ^ら i (拭く)	oo ^ら ○ ^ら じ, o ^ら ○ ^ら ○
3b2	ヌスム	盗む	nusji ^ら mju ^ら ji	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	ネガウ	願う	nego ^ら ju ^ら ji	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	ノコス	遺す	noko ^ら sjui	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	ノコル	残る	noko ^ら ju ^ら ji	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	ノバス	延ばす	nuba ^ら sjui	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	ハカル	計る	haka ^ら ju ^ら ji, kE: ^ら ju ^ら ji (かける)	oo ^ら ○ ^ら じ, ○ ^ら ○ ^ら じ
3b2	ハサム	挟む	hasa ^ら mju ^ら ji	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	ハジク	弾く	hacji ^ら o ^ら kju ^ら ji [sic.]	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	ハシル	走る	hasji ^ら ju ^ら ji	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	ハラウ	払う	haro ^ら ju ^ら ji	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	ハラム	はらむ	hara ^ら mju ^ら ji	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	ヒカル	光る	「ha:ga:ju ^ら i (稲妻, 電灯), tiju ^ら i (禿頭=照る)	「○○○, o ^ら ○ ^ら ○
3b2	ヒタス	浸す	cji ^ら o ^ら kju ^ら i (漬ける)	o ^ら o ^ら ○
3b2	フクム	含む	Fu ^ら o ^ら ku ^ら mju ^ら ji	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	フセグ	防ぐ	「sa:gju ^ら i [sic.]	「○○
3b2	フトル	肥る	「KwE: ^ら ju ^ら ji	「○ ^ら ○
3b2	マジル	交じる	mazji ^ら ju ^ら ji	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	マモル	守る	mamo ^ら ju ^ら ji [sic.]	oo ^ら ○ ^ら じ
3b2	マヨウ	迷う	majo ^ら ju ^ら ji	oo ^ら ○ ^ら じ

3b2	モデル	戻る	mu <u>du</u> 「 <u>ju</u> 」 <u>i</u>	oo「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
3b2	ヤスム	休む	ja <u>sj</u> 「 <u>mju</u> 」 <u>i</u>	oo「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
3b2	ユルス	許す	ju <u>ru</u> 「 <u>sju</u> 」 <u>i</u>	oo「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
3b3	アルク	歩く	'a <u>k</u> 「 <u>Kju</u> 」 <u>i</u>	o「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
3b3	カクス	隠す	ka <u>N</u> 「 <u>mI</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u>	o「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
4a1	アフレル	溢れる	'a「 <u>burijui</u> 」[sic.]	o「 <u>oo</u> 」
4a1	ウズメル	埋める	「 <u>uNb</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u>	「 <u>oo</u> 」
4a1	ウマレル	生まれる	「 <u>Ma:rijui</u> 」	「 <u>oo</u> 」
4a1	オクレル	後れる	'u「 <u>Kurijui</u> 」	o「 <u>oo</u> 」
4a1	カタメル	固める	ka「 <u>tamI</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u>	o「 <u>oo</u> 」
4a1	ハジメル	始める	ha「 <u>zjimI</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u>	o「 <u>oo</u> 」
4a1	ハズレル	外れる	ha「 <u>zjirijui</u> 」	o「 <u>oo</u> 」
4a1	フクレル	脹れる	Fu「 <u>kurijui</u> 」	o「 <u>oo</u> 」
4a1	ワスレル	忘れる	wa <u>s</u> 「 <u>sjj</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u> [sic.]	o「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
4a2	オサメル	納める	'usa「 <u>mI</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u>	oo「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
4a2	オボエル	覚える	'u <u>bI</u> 「 <u>ju</u> 」 <u>i</u>	oo「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
4a2	クズレル	崩れる	Kuz <u>ji</u> 「 <u>ri</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u>	oo「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
4a2	タズネル	尋ねる	ta <u>N</u> 「 <u>ne</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u>	o「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
4a2	ナガレル	流れる	naga「 <u>rI</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u>	oo「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
4a2	ミダレル	乱れる	Nzja「 <u>ri</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u> , mizja「 <u>ri</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u>	oo「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」 , oo「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
4a2	ヤブレル	破れる	jabu「 <u>ri</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u>	oo「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
4a2	ワカレル	分れる	ha:「 <u>ri</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u> , wa:「 <u>ri</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u>	o「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」 , o「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
4b1	ウタガウ	疑う	'u「 <u>tago</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u>	o「 <u>oo</u> 」
4b1	カサナル	重なる	ka「 <u>sanajui</u> 」	o「 <u>oo</u> 」
4b1	カタマル	固まる	ka「 <u>tamajui</u> 」	o「 <u>oo</u> 」
4b1	ハジマル	始まる	ha「 <u>zjimajui</u> 」	o「 <u>oo</u> 」
4b1	ハタラク	働く	ha「 <u>ta:rakjui</u> 」	o「 <u>oo</u> 」
4b2	アズカル	預かる	'ac <u>ji</u> o「 <u>ka</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u> [sic.]	oo「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
4b2	アツマル	集まる	'ac <u>ji</u> 「 <u>ma</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u>	oo「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」
4b2	タスカル	助かる	tas <u>ji</u> o「 <u>ka</u> 」 <u>j</u> 」 <u>ui</u>	oo「 <u>o</u> 」 <u>j</u> 」

◎ 形容詞

類	読み	表記	語形	音節構造
2k1	ナイ	無い	ne:raN, ne ^r N	○ ^r ○, ^r ○
2k1	ヨイ	良い	juta: ^r hai	o○ ^r ○
2kz	スイ	酸い	^r sjj:hai	^r ○○
3k1	アカイ	赤い	^r ha:hai	^r ○○
3k1	アサイ	浅い	'asa: ^r hai	o○ ^r ○
3k1	アツイ	厚い	'aCji: ^r hai	o○ ^r ○
3k1	アマイ	甘い	'ama: ^r hai	o○ ^r ○
3k1	アライ	荒い	'ara: ^r hai	o○ ^r ○
3k1	オモイ	重い	'ubu: ^r hai [sic.]	o○ ^r ○
3k1	カルイ	軽い	garu: ^r hai [sic.]	o○ ^r ○
3k1	クライ	暗い	Kura: ^r hai	o○ ^r ○
3k1	トーイ	遠い	^r tu:hai	^r ○○
3k2	アオイ	青い	'a'u: ^r ai [sic.]	o○ ^r ○
3k2	アツイ	暑い	'aCji: ^r hai	o○ ^r ○
3k2	イタイ	痛い	jamju ^r i (病む) (cf. 'icja: ^r hai (湯が熱い))	o ^r ○ cf. o○ ^r ○
3k2	ウマイ	旨い	^r Ma:hai	^r ○○
3k2	オーイ	多い	Fu: ^r sai	○ ^r ○
3k2	カライ	辛い	kara: ^r hai	o○ ^r ○
3k2	キヨイ	清い(きれい)	kjura: ^r hai	o○ ^r ○
3k2	クサイ	臭い	ku ^o sa: ^r hai	o○ ^r ○
3k2	クロイ	黒い	Kuru: ^r hai	o○ ^r ○
3k2	コワイ	強い(固い)	kwa: ^r hai (御飯や毬が)	○ ^r ○
3k2	サムイ	寒い	sjigi ^r ro:hai	oo ^r ○○
3k2	シブイ	渋い	sjibu: ^r hai	o○ ^r ○
3k2	シロイ	白い	sjiru: ^r hai	o○ ^r ○
3k2	タカイ	高い	ta: ^r hai	○ ^r ○
3k2	チカイ	近い	cji ^o kja: ^r hai	o○ ^r ○
3k2	ツヨイ	強い	^r Cju:hai	^r ○○
3k2	ナガイ	長い	naga: ^r hai	o○ ^r ○
3k2	ニガイ	苦い	Ngja: ^r hai, njigja: ^r hai	o○ ^r ○, o○ ^r ○
3k2	ハヤイ	早い	haja: ^r hai, haje: ^r hai, FE: ^r sai	o○ ^r ○, o○ ^r ○, ○ ^r ○

3k2	ヒクイ	低い	sjiku:「hai	o○「○
3k2	ヒロイ	広い	sjiru:「hai	o○「○
3k2	フカイ	深い	Fu _o .ka:「hai	o○「○
3k2	フルイ	古い	furu:「hai	o○「○
3k2	ホシイ	欲しい	Fu:「sai	○「○
3k2	ヤスイ	安い	jasji:「hai	o○「○
3k2	ワカイ	若い	wa:「hai	○「○
3k2	ワルイ	悪い	was「sai	○「○
3kz	フトイ	太い	fl:「sai	○「○
3kz	マルイ	丸い	maru:「hai	o○「○
3kz	ヨワイ	弱い	juwa:「hai	o○「○
4k1	アヤシイ	怪しい	sjiN「mara:hai (不思議だ)	○「o○○
4k1	カナシイ	悲しい	x	-
4k1	ヤサシイ	易しい	jasji:「hai [=安い]	o○「○
4k2	ウレシイ	嬉しい	「ho:ra:hai (誇らしい)	「○○○
4k2	クルシイ	苦しい	kwE:「hai	○「○
4k2	サビシイ	寂しい	tudIN「na:hai (徒然ない)	o○「○○
4k2	スズシイ	涼しい	sjida:「hai	o○「○
4k2	ハゲシイ	激しい	x	-
4kz	アカルイ	明るい	x	-
4kz	アブナイ	危ない	「o:sai	「○○
4kz	イトシイ	愛しい	kana:「hai (かなしい)	o○「○
4kz	ウルサイ	うるさい	juN「gamara:hai	○「oo○○
4kz	オーキイ	大きい	fl:「hai (cf. 太い)	○「○
4kz	オカシイ	おかしい	'o:「sai	○「○
4kz	キタナイ	汚ない	janaN「gl:hai	o○「○○
4kz	スクナイ	少ない	'iki「ra:hai	oo「○○
4kz	チイサイ	小さい	gunja:「hai (狭い意も)	o○「○
4kz	マブシイ	まぶしい	mI:「sjigiro:hai	○「oo○○
4kz	ミジカイ	短かい	hjika:「hai	o○「○
5kz	アタタカイ	暖かい	nuKu:「hai (ぬくい)	o○「○
5kz	アタラシイ	新しい	「mi:hai	「○○
5kz	イソガシイ	忙しい	'isju「ga:hai	oo「○○
5kz	ウスグライ	薄暗い	'usji「gura:hai	oo「o○○

5kz	オソロシイ	恐ろしい	'utu「ru:hai	oo「○○
5kz	オモシロイ	面白い	mIzji「ra:hai [=珍しい]	oo「○○
5kz	オトナシイ	おとなしい	「KwE:zjira:hai	「○○○○
5kz	ハズカシイ	恥ずかしい	hacji.「ka:hai	oo「○○
5kz	ムズカシイ	難しい	mucji.「ka:hai	oo「○○
5kz	メズラシイ	珍しい	mIzji「ra:hai	oo「○○
5kz	ヤカマシイ	やかましい	juN「gamara:hai	○「oo○○
5kz	ヤワラカイ	軟らかい	ja:「ra:hai	○「○○